

## 歩み続けてきた友の会

図書館友の会 会長代行 内田清子

小平図書館友の会は、図書館を利用する者たちの交流を図ると共に、図書館の発展と充実に寄与することを会の目的として掲げ、活動し続けて、今年設立10周年を迎えました。設立総会の時、出席された方々が、図書館に対するそれぞれの想いを熱く語り合ったその光景は、友の会の設立に対して、それ程積極的でなかった私にとって、爽やかな感動と共に私の脳裏に強烈に焼きつきました。

あれから10年……。私は、今は一時的にせよ、会長代行となり、友の会の活動をみなさんと共に楽しんでます。初代本間会長が、会のリーダーシップをしっかりと執ってくださったことが、会の方向性を見失うことなく、地道に友の会の活動を積み上げていくことができたのだと思います。講演会、チャリティ古本市、交流会、利用者懇談会、文学散歩等の他に、学習会（図書館について学ぶ会、障がい者サービス交流会、声に出して本を読む会、YAを楽しむ会）が会員の中から誕生しました。図書に関連する様々な活動がとてもバランスよく行なわれていると思います。ただいま、老若男女問わず、縁があって会員になられた方が150名おりますが、入会後は自分の好きなことを中心に楽しんで活動されています。

多くの方に、友の会のことを知ってもらおうと始まったチャリティ古本市を1つ取り上げても、今年は開催するのか、どんな古本市にしたいのか、総会で、世話人会で真摯に話し合いました。忌憚なく、意見交換ができる仲間がいるということは幸せなことです。そして、今年の10回目の古本市も、会員同士の交流を深めながら、いくつかの課題は残したものの、盛況のうちに終わることができました。アンケートにより、いつのまにか一般の方々も、古本市を心待ちにしていることがわかり、自分たちだけのイベントではなくなってきたことを感じました。

公立図書館を取り巻く状況が厳しい今、図書館が好きで、本が好きでと集まってきた人々で、何か図書館の発展のためにできたら嬉しく思います。友の会は、図書館の応援団と言ったらおこがましいでしょうか……。でも、いつも気持ちはそうありたいと思います。

最後に、次の15年、20年と小平図書館友の会が、地道に歩み続け、会員がどんどん増えていくことを願っております。



## 啄木の山の美林に「友の会」十年を思う

本間 浩(元会長)

断続的豪雨が続く夏に珍しい晴れ間の日に仕事の合間を併せて、啄木の「ふるさとの山」の一つ、姫神山という二等辺三角形の美しい山に登り、その山中の森林の美しさを堪能した。林立する太い杉木立は、病虫被害に罹らなかった強い木とその種から育った子孫から成っていた。その組み合わせに「友の会十年」を想った。

小平の市、学校などの図書館は、問題がなお残っているとはいえ、今後に残したい市民の公共財。「友の会」は図書館の充実化に協力してきた。しかも、図書館利用の受益だけを主張し図書館行政を専ら攻撃するのではなく、市民の公共財だからこそ図書館の充実化をいっそう育てていこうとした。この発想は正に地方自治の精神。地方分権の時代といわれながら、お上から分権化を唱えられるだけで、私たちが地方自治の拡充の主役、という意識を私たち市民の側が育み損ねている。「友の会」は、図書館という分野ではあるがその育みを実践している、と想う。

近頃「友の会」のイベントから遠退いてしまっているが、機会ある毎にお目にかかった沢山の会員の笑顔を思い出す。おそらく、一方ではちっぽけになったとはいえ雑木林や屋敷林の点在する風土に心の拠点をおきながら、他方では図書館の充実化という自らの取り組みに創り出しの喜びを感じていたのだ、と想う。伝統を大切にしながら新しいものの創造に挑戦していく。バランスの取れたこの精神を「友の会」は今後も継続して欲しい。

創り出すより継続する方が難しい、といわれるが、継続こそ、「友の会」のような市民団体の財産。その継続のコツの一つは、会員が愉しいと想う企画の編み出しにある。その企画を「友の会」役員に委ねるままにするのではなく、会員の皆さんが持ち寄り、実現に協力してはいかが。原点の話に戻るが、会員の、市民の、積極的な地方自治の精神を、自らいかに育てていくか。それが一人ひとりの課題であると想う。

\*\*\*\*\*

## 『進化してきた』友の会』の10年

事務局 伊藤 規子

図書館友の会ができてから10年がたちました。長いような、短かったような・・・。

子ども文庫の図書館問題学習会で、「図書館って大人のものでもあるんだから、もっと大人の利用者のことも考えていきたいね」「ほんとは友の会があるといいのよね」「でもこれ以上なにかやるなんて大変だから」と話し合っていた日々、「まあなんとかなるだろう」「始めちゃおうよ」と決めた日、けっこう鮮明に覚えてます。

もちろんそれからは大変でした。会則をつくり、役員を決めました。できれば代表として重鎮としてふさわしい方に会長をお願いしようと、本間浩さんをお願いに行き、快く引き受けてくださった時の安堵感。図書館に「友の会発足」をお話ししにも行きました。図書館の方たちは、はじめてのことで、なんとなく「圧力団体」誕生のイメージを持たれたのではないのでしょうか。

実のところ、始めた私たち自身、「図書館友の会とは」というはっきりしたイメージを持っていたわけでもなかったような気がします。「図書館が好きで、いつもそこに係わっていた人の集まり」とでもいう感じでした。

あれから10年。いまでは、会員数は約150人、定例の催しとして、古本市や講演会、交流会、文学散歩、4つの学習会（図書館について学ぶ会、障がい者サービス交流会、声に出して本を読む会、YAを楽しむ会）が活動しています。今年初めての利用者懇談会も開くことができました。

“図書館は進化する有機体”という言葉があるそうですが、私たちも“進化する図書館友の会”として、充実し、進化しつづけてきたような気がします。

昔々、結婚して、子どもが生まれたばかりでまだ身動きのとれないころ、住んでいた多摩市一の宮の境内に、移動図書館が楽しげな音楽とともに週に一度回ってくる、その時が私にとって至福の時でした。30年も前の話です。

公共図書館も当時と比べて飛躍的に充実して使いやすくなりました。小平市の8館3分室ある図書館は、ちょっと歩けばたどり着くし、ネットの蔵書検索は便利だし、「いいな～、この生活」と思っているのです。

これからも、図書館が発展していくこと、そしてもちろん、小平図書館友の会が、会員みんなの力で発展していくことを願っています。



## 学習会・イベント

\*\*\*\*\*

### 10年を振り返って

#### —図書館について学ぶ会—

加藤 裕史

私が、「小平図書館友の会」に入会したのは発足してから2～3ヶ月後でした。その後、図書館についての勉強会があることを知り、図書館員として働いてそんなに経ってないことから、私も参加してみようと思い参加しました。その後、私が図書館員であることから、リーダーをやると皆様から言われて、やるようになり現在に至っています。

活動内容は、一つのテーマ（業務委託・図書館協議会等）を決めて色々と学習しています。最初は、インターネットが普及し始めの頃で、インターネットでどんな情報を得られるかということ、会員の家で皆さんに、都立図書館や書店のウェブの利用方法を教えることをしました。その後は、図書館サービスの一つであるレファレンスサービス・図書館の業務委託・図書館協議会等のテーマを学習してきました。また、学習していく中で、他の図書館の見学・アンケート調査等を行い、何より良かったのは、図書館友の会から図書館長に対して提案が出来たのが良かったと思っています。10年前より私は、小平市立図書館が少しずつ変わってきていると感じています。

現在は、「図書館ボランティア」について学習していて、障害者サービス関係や図書修理ボランティア等について小平の図書館ボランティアについて今後どうしていったら良いのか考えています。今後、この学習会では様々なことを考えていき、小平の図書館サービスを利用者側から変えていくようにしたいと思っています。どうぞ、会員及び市民等でご興味がありましたら、ぜひご参加下さい。

\*\*\*\*\*

## 9周年を迎えた「障がい者サービス交流会」

名取 公子

この会は、友の会の交流会であがってきた会員の声をもとに、小平市の図書館に於ける「障がい者サービス」について考える「障がい者サービス学習会」から始まりました。

図書館に相談したところ、図書館もこれからの重要課題と捉えており、「障がい者サービス交流会」は第1回から図書館との共催事業としてサービス向上にむけて活発な意見交換をしてまいりました。

日本図書館協会によりますと、「障がい者サービス」とは「図書館利用に障害のある人々へのサービス」と定義づけており、あらゆる障害のある人も、高齢者も、異言語の人も、「すべての人が利用できるようにする。これは図書館が行うべき仕事である。」とっています。

「障がい者サービス交流会」も今年3月で第9回が終わりました。

サービス利用者、社会福祉協議会、障がい者関係ボランティア、図書館、図書館友の会の5者が一堂に会して共通の話題に取り組み、中でも障がい者の方からの発言では普段我々の気づかない多くの事柄を学ぶことができました。

障がい者サービスは1対1のサービスですから、図書館の仕事とはいえ、利用者が満足する対応を受けるにはボランティア抜きにはとても無理なことだと思います。

今、障がい者の図書館ボランティアとしては、朗読、点字、拡大写本、布の遊具等の団体が、図書館を拠点に活動しています。しかし、それを利用したい人とボランティアを結びつけるシステム作りが遅れているため有効に機能しておりません。

今後の課題としては、図書館に専門の窓口を設け、利用したい人とボランティア、それを結びつける担当職員の配置こそが急務だと思います。

第9回の交流会にも障がい者から図書館サービスを受けたい旨、積極的な希望がありました。この貴重な意見が無駄にならないよう、友の会は後押ししたいと思います。

\*\*\*\*\*

## 「声に出して本を読む」って、なに？ 友の会 10 周年に寄せて

雑崎 亮平

「声に出して本を読む会」の発足には、ちょっとした動機づけがあった。

2004 年の第 7 回総会で、「友の会の活動 6 年間の蓄積を、新たな創造に結びつけよう」との、本間会長（当時）のあいさつ、2001 年刊の斎藤孝著『声に出して読みたい日本語』による朗読ブーム、さらに朗読劇「この子たちの夏（地人会）」に触発された会員から、感動した著作を共有する手段として「声に出して本を読むこと」も友の会活動の発展につながるのでは、との提起が役員会で取り上げられ、「ドイツでは、朗読を聴くことが立派に地域文化として根付いている」との本間会長の励ましもあって、誕生したといえる。

2005 年 1 月 19 日、第 1 回の集いをもったあと、紆余曲折？を経ながら、3 年を経過した。「友の会 10 年のあゆみ」の中では、ささやかな営みだが、それなりに進化してきた、とおもう。当初は、それぞれ好きな本を好きなように読む、ということだったが、回を重ねる中で、「声に出す以上、聴いていただく人への努力もすべきだ」と、少しずつ技術的側面をご教示いただきながら、これまでに 4 回の発表会をもち、「ルネこだいら・市民自主公演支援事業」にも応募し、今年 3 月、友の会 10 周年記念の節目として、市民手づくりの発表会「ことばの玉手箱」が開催できたことは、関係者一同、寄せられたご支援への感謝と共に、一つの成果と受け止めている。「声に出して本を読む」という当り前のことに、自らハードルを高くして苦勞する面もなしとはしないが、今年の発表会では演出、照明、音響のご協力も得て、全員が高揚感を味わい、今後の活動に弾みをつけた。この経験を大切に、「初心に立ち返った」地道な活動が継続されること、いずれまた、感動を共有できる「つどい」がもてるよう、新しい気持ちで取組んでいくことを、会員一同、確認している。

これまでの成果が重荷になるような、一抹の不安を抱えつつも、「声に出して本を読む」ことの意義を大切に、友の会のみなさんと、活動を展開していくことになる。

\*\*\*\*\*

## YA を楽しむ会・報告

重村 ヒロミ

YA を楽しむ会は 2006 年 7 月に始まりました。 月一回開催で今までに 38 冊の本を読んで話し合いました。

「YA」というのは「ヤングアダルト」の略語なのですが、この言葉はあまり知られていないようなので、いつも「十代の少年少女を主人公にした本」と説明しています。

「十代の少年少女」といっても、11 歳と 19 歳では抱えている問題があまりにも違います。その上ファンタジーあり、物語あり、現実のシビアな問題ありと、範囲がどんどん

広がっていきます。

大海に漂う小舟のような気分で、古今東西の作品をそれぞれが思いつくままに挙げてみて、東へ行ったり西へ行ったりしながら 2 冊の本を選び出します。基本的には、十代の後半の本、外国と日本のを 1 冊ずつとしているのですが、外国の本が多くなります。

多少の入れ替わりはありますが、大体 10 人前後の人が集まります。講義や講座ではないので、各自好きなことを話します。結論を出す必要もないのです。

「Aさんはこんな感じ方をする人だな」「Bさんはこんなことに興味があるんだ」「Cさんは論理的な人だなあ」などと、回を重ねるごとにその人その人の輪郭が奥行きを持った立体的なものになっていくように感じます。

何気なく読み飛ばしていたところに深い意味を見出している人がいてビックリしたり、自分とはまったく違う感想を持っていることに驚かされたりします。

ローズマリー・サトクリフの作品の中でも、好きな作品とどうしても入り込めない作品があって、その好き好きがきれいに二極化することにも、話してみても驚きました。

そんな風にたわいもないおしゃべりをする会です。

「YAを楽しむ会」で  
取り上げた本の一例

『さすらいのジェニー』、『闇の戦い』  
『テラピシアにかける橋』  
『豚の死なない日』、『クリスピン』  
『九年目の魔法』、『ケルトの白馬』  
『海がきこえる』、『西日の町』  
『GO』、『シカゴよりこわい町』

## \*\*\*\*\*古本市

### 十年一昔

島 正夫

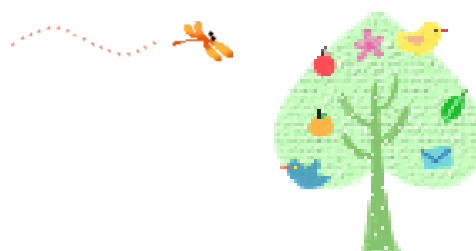
月日の経つのは早いもので、友の会の創立からも古本市の幕開けからも十年を経過しました。中央公民館の前庭にシートを上げた露天の古本市も、10 回目を迎えた今年は中央公民館ギャラリーを 6 日間借り切って、小平市の有名イベントにまで成長してしまいました。

私は 3 回目から参加しましたが、総指揮の渡辺さんの厳格な指導には参りましたが、この手法—寄付本の冊数を数える、名簿を作り、礼状を出す。アンケートを集計し、売上高を確定のうえ、詳細な総括をする—は殆どそのまま体系化されました。4 回目からは露天商を止めて室内（ギャラリー）に移り、会期も 2 日間に延ばし、集本や整理期間も倍増の 4

日となりました。小平市民の熱烈な応援のお陰で、年々寄付本も増え売上也記録を更新してゆく現状を、少しばかり恐ろしく思いつつ窺い見ております。

個人的な思い出ですが、本田さんの軽トラックで、古畑家の書齋全部の 800 冊超を半日ばかりで集本したこと、某新聞社の取材を受け、翌日の紙面に会場の混雑模様が掲載されたことなどと尽きませんが、なんと言っても毎年の初日には時間前からの大行列が出来、会場に雪崩れ込む人々の熱気が、麻薬のように私を痺れさせ「躁」のスイッチをオンにする元凶なのです。そして最大の楽しみが、旬のご馳走の詰まった重箱の差し入れを頂く昼食です。まことに口福の限りで毎年涎をたらしております。

いつの間にかモンスター化したこの古本市が友の会 150 人足らずの会員でどこまで、どうやって支えてゆけるのか、気掛かりながらもやっぱり来年の参加を誓っています。



## 小平図書館友の会 年表

### 第 1 年度 (1998.10~1999.9)

〈1998 年〉

10.04 設立総会・記念講演

「ドイツの旅から」(講師:本間浩氏)

(設立時会員 67 人・初代会長 本間浩氏)

11.15 会報創刊号発行 (900 部)

12.11 小平市中央図書館見学と懇親会

〈1999 年〉

02.23 講演会「小平市の古文書と資料保存」(講師:小平市中央図書館 蛭田廣一氏)

04.01 中央図書館の齊藤正男館長が異動、新館長に唐澤邦氏。

05.15 会報 2 号発行 (1000 部)

05.30 第 1 回チャリティ古本市 (約 700 名来場。集本されたもののうち『名著復刻「日本児童文学館」』など 90 冊を図書館へ寄贈。売上: 50,772 円。社会福祉協議会へ 29,000 円寄付)

この頃 会員交流紙 1 号発行

07.21 講演会「図書館利用ガイドー情報の探し方、本の探し方」(講師:小平市中央図書館 名取俊明氏)

09.24 国立国会図書館見学

・役員会：月1回 開催

## 第2年度（1999.10～2000.9）

〈1999年〉

10.01 第2回総会（会員74人）

記念講演「私のモンゴル紀行」（講師：西村弘氏）

11.15 会報第3号発行

この頃 会員交流紙2号発行

12.03 会員交流会

12.17 友の会ホームページ開設 <http://www4.plala.or.jp/Nori/>

〈2000年〉

01.23 喜平図書館見学と館長との懇親会

02.27 講演会「玉川上水とこだいら」（講師：小平市中央図書館 蛭田廣一氏）

03.26 歴史散策「玉川上水を歩く」（案内・講師：庄司徳治氏）

05.15 会報第4号発行

05.28 第2回チャリティ古本市（図書館へ48冊寄贈。売上102,000円。）

06.24 会員交流会

07.25 古本市売り上げより図書館へ電子タイプライター（36,750円）を寄贈、社会福祉協議会へ20,000円寄付

09.16 第3回チャリティ古本市世話人会（古本市は世話人会を中心に準備することになり、2001年6月まで18回開催）

・月1回役員会

## 第3年度（2000.9～2001.10）

〈2000年〉

10.01 第3回総会（会員118人）・記念講演「図書館友の会の可能性・友の会への期待」（講師：東京学芸大学教授山口源次郎氏）交流紙の毎月発行、手配り体制を決定

10.22 講演会『子ども読書年と国際子ども図書館』（講師：国際子ども図書館館長 亀田邦子氏、於：中央公民館視聴覚室、小平市子ども文庫連絡協議会と共催）

11.15 会報第5号発行

11 交流紙4号発行

12.07 小平市図書館条例改定にともない、図書館条例勉強会開始（のちの「図書館について学ぶ会」）

12. 交流紙5号に改定された「小平市図書館条例」掲載。この号より会報の手配りスタート

〈2001年〉

01.09 大沼図書館開館

01.18 障がい者サービス学習会発足

01.20 新年交流会

- 02.02 図書館ブックリサイクル事業（図書館の本が廃棄され市民に無料配布）に友の会としてボランティア参加【2月2日から3月16日準備作業】延べ77人（7日間）【3月24日25日当日】延べ16人（2日間）
- 02.20 図書館条例についての勉強会
- 02.22 第2回障がい者サービス学習会（講師：小平市立図書館 斎藤淑子氏）
02. 友の会より図書館協議会に委員を推薦（内田清子氏）
- 03.07 国際子ども図書館見学・上野周辺の散策（朝倉彫塑館見学、谷中墓地散策など）
- 04.01 図書館協議会の委員に会員の内田清子氏就任
- 04.01 中央図書館の唐澤館長が退職、新館長に山田勇氏。  
中央図書館の開館時間、月曜～木曜は午後7時までに延長となる
- 05.15 会報第6号発行
- 05.20 第3回チャリティ古本市（収益金・5万9674円。社会福祉協議会へ・2万円、図書館支援金・2万円積立て）
- 06.22 図書館について学ぶ会発足（図書館条例についての勉強会を発展させ名称変更）
- 06.28 小平市立図書館と共催で講演会  
「すべての人に図書館サービスを 一障がい者サービスを考える」  
（中央図書館視聴覚室、講師：墨田区立緑図書館 山内 薫氏）  
（障がい者サービス学習会として）
- 07.07 会員交流会「私の1冊」（於：中央公民館）
- 07.26 障がい者サービス学習会
- 07.27 会員有志による「図書館」を肴に飲む会
- 08.21 ティーンズ向けイベント「マンガ家になるには？—こうしてマンガは作られる—」  
開催（講師：市内在住マンガ家 笠原倫氏）
- 09.07 図書館について学ぶ会（テーマ：図書館の電子化について）
- 09.27 障がい者サービスについての学習会拡大版（障がい者サービス利用者・ボランティアグループ・図書館・社会福祉協議会・小平図書館友の会が一堂に会しての情報交換会。以後障がい者サービス交流会として定着）
- ・役員会：月1回、図書館について学ぶ会：月1回
  - ・交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」4号～12号発行（1～4号までは不定期、5号以下はほぼ毎月1回）

#### 第4年度（2001.10～2002.9）

〈2001年〉

- 10.14 第4回定期総会（会員数136名）・記念講演「小平市立図書館の図書館運営と事業計画」（講師：小平市中央図書館館長補佐 蛭田廣一氏） 有志の手配り体制を「ハンドメイドクラブ」として設置 古本市収益金より、図書館への寄付として2万円をあてる。また古本市の収益の一部を、ボランティアグループ作成予定の「市立図書館蔵 障害者サービス資料目録」（拡大写本と布の絵本の目録〈拡大写本の会 ひまわり〉作成）、録音図書（朗読テープ）の点字目録、点字図書〈点訳サークル「かりん」「け

やき」作成)の点字目録)にあて、図書館に寄贈することとした。

- 11.15 会報第7号発行  
会報臨時号『市民からみた小平市立図書館のあゆみー第一館開館までー』(名取公子著)発行
- 11.30 図書館について学ぶ会 中央図書館のコンピュータ体験
- 12.01 会員交流会
- 12.12 図書館について学ぶ会  
「図書館の電子化について」(立川市中央図書館見学)
- 12.12 「子どもの読書活動の推進に関する法律」施行  
(2002年)
- 01.06 帯広図書館友の会準備会の方4名と、同市立図書館職員の方1名が来訪し懇談
- 02.17 草創期からの会員で古本市等で尽力された中野富一氏逝去
- 02.20 図書館について学ぶ会「浦安市立中央図書館見学」 終了後、浦安図書館友の会と交流
- 03..01 図書館にお願いしたい事項をまとめた文書を中央図書館長へ提出(図書館のIT化に関して、図書館休館日についてなど。交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」17号に報告)
- 03. 交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」増刊号(浦安図書館見学記)発行
- 04.17 「多摩市に中央図書館をつくる会」6名が来訪
- 05.15 会報8号発行
- 05.25~26 第4回チャリティ古本市  
【収益金額】16万3486円、1日目 11万3386円、2日目 5万100円(2万円は小平市社会福祉協議会へ、残る10万円を小平市立図書館へ各々寄付することに)アンケート実施
- 06.04~07.15 図書館について学ぶ会  
他市の図書館でレファレンスがどのように行われているか近隣図書館等20館にアンケート実施(回収19館)
- 06.13 第2回障がい者サービス交流会
- 06.13 古本市反省会(於:学園東町地域センター)
- 06.22 講演会「『市民の図書館』からの脱却——公共図書館が変わる」(講師:糸賀雅児氏(慶応大学文学部図書館・情報学科教授))
- 07.07 津田図書館見学
- 07.02 「らいぶらりーふれんず・こだいら」21号に図書館について、図書館について学ぶ会アンケート報告掲載
- 08.24 会員交流会
- 09. 「らいぶらりーふれんず・こだいら」23号に図書館ボランティア「宅配」アンケート結果掲載
- 09.13 第2回図書館ボランティアについて話し合い  
・月1回:役員会。図書館について学ぶ会・7回、障がい者サービス学習会(2回)  
・交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」13号~23号発行

## 第5年度(2002.10~2003.9)

### 〈2002年〉

- 10.06 第5回定期総会(会員134名)役員改選により新副会長に内田清子氏、島正夫氏
- 10.08 図書館のオンライン情報管理システムの新規移行 図書館のホームページ  
<http://library.kodaira.ed.jp/> 正式スタート 各館に端末機増設  
中央図書館に「ティーンズコーナー」設置
- 10.13 小平市立図書館主催「ビジネス支援セミナー」第1回(以降全5回開催、延べ241名参加)
- 11.15 会報9号発行
- 11.20 小平市立第二中学校地区ボランティアサポートネット図書館ボランティア講座で友の会について話す
- 12.07 「小平ボランティア情報メイト」の集まりで友の会について話す
- 12.12 第3回障がい者サービス交流会
- 12.- 録音図書目録の点字版が完成(中央図書館、小川西町図書館。市内の朗読サークルがつくった録音図書を点字サークル「かりん」、「けやき」が5か月かかって完成したもの。巻末には墨字(普通の印刷文字)目録を付す)

### 〈2003年〉

- 01.11 会員交流会
- 01.27 さいたま市東浦和図書館見学 終了後同館友の会と交流
- 01.29 友の会役員と小平市立図書館職員の方々との懇談会
02. 図書館の新サービス:インターネットからの予約一部開始(貸出中の資料にかぎる)
- 02.28 インターネットでの「東京都の図書館 蔵書横断検索」  
<http://metro.tokyo.opac.jp/> に小平市立図書館参加
- 03.31 図書館について学ぶ会(テーマ:小平中央図書館のレファレンス、講師:小平市立図書館 渡辺房江氏)
04. 中央図書館の山田館長が退職、新館長に安藤憲一氏
04. 古本市世話人会および手配りグループ「ハンドメイドクラブ」の活動中の事故に備えて小平市社会福祉協議会のボランティア保険に登録
- 04.06 小平霊園文学散歩(案内:松永軍治氏)
- 05.15 会報10号発行
- 05.24~25 第5回チャリティ古本市(寄付本のなかより図書館、上水中学校、第15小学校、子ども文庫連絡協議会などに寄贈。売上金額184,452円(社協へ寄付:20,000円 図書館へ寄付:100,000円 古本市運営基金:56,952円)。図書館へは前年度分と合わせデイジー図書・CD再生機(プレクストーク約5万円)とテープレコーダー(約2万円)、レファレンスのための参考図書約5万円。手伝いの会員全員ボランティア保険に入った)
- 07.01 図書館の個人貸出冊数10冊以内に変更。貸出期間は従来どおり2週間。インターネットからの全蔵書の予約開始
- 07.10 第4回障がい者サービス交流会

- 07.10 草創期からの会員で前役員として会報編集・古本市はじめ会の活動に尽力された中野三和子さん逝去
- 07.12 講演会「藤沢周平と武蔵野」（講師：和田あき子氏）
- 08.11 図書館について学ぶ会（「図書館員の専門性」について蛭田館長補佐にお話をうかがう）
- 10.01 市制施行 41 周年記念式典で、小平図書館友の会が、市民功労者として感謝状を受ける
  - ・月 1 回役員会。図書館について学ぶ会（9 回・テーマ①レファレンスについて、②図書館員の専門性について、③図書館の委託について）、障害者サービス交流会（年 1 回）
  - ・交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」24 号～32 号発行
  - ・第 5 年度 収入：343,868 円、支出：106,781 円

## 第 6 年度（2003.10～2004.9）

### 〈2003 年〉

- 10.04 第 6 回定期総会（会員数 121 人）
- 10.15 嘉悦女子大図書館見学
- 11.15 会報 11 号発行
- 12.06 会員交流会（会員 内山さん藤沢周平作『十三夜』朗読）

### 〈2004 年〉

- 02.04 第 5 回障がい者サービス交流会
- 02.16 図書館について学ぶ会（足立区立図書館職員に委託についての話を伺う）
- 02.23 図書館について学ぶ会（TRC の方に TRC の委託事業について話を伺う）
- 02.28 講演会「ひと昔前の小平を『ききがき』で掘り起こす」（講師：下澤勝井氏 日本文芸家協会会員）
- 03.08 図書館について学ぶ会拡大学習会（講師：堀渡氏「デポジットライブラリーについて—多摩むすびの構想より」）
- 03.13 文学散歩「吉川英治記念館見学と観梅の会」
- 03 市民活動支援組織 NPO 法人小平市民活動ネットワークに団体会員として入会
- 04 5 周年記念誌発行
- 05.15 会報 12 号発行
- 05.15, 16 第 6 回チャリティ古本市（集本数 20,341 冊、売上高 230,360 円 社協へ寄付 2 万円、図書館へ寄付の積立 12 万円、経費積立 9 万円）  
毎日新聞社の取材  
昨年まで積立金より図書館へ寄贈（『科学技術 45 万語和英対訳大辞典』『電気・電子・情報 17 万語英和辞典』『羅和字典』計 105,000 円）
- 08.07 会員交流会
- 08.20 「山中湖情報創造館」見学
- 09.14 元気村おがわ東入口ロビーに図書館友の会書棚を設置。古本市の残本の一部を置く。持ち出し自由。
- 09.18 講演会「田端文士村をめぐる人々—芥川龍之介、室生犀星・・・」（講師：近藤富枝氏）

67人)

役員会：月1回。図書館について学ぶ会（6回 テーマ：図書館の委託について）

- ・ 交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」33号～41号発行（図書館職員にも配布開始）

## 第7年度（2004.10～2005.9）

（2004年）

- 10.02 第7回定期総会（会員数138名）
- 11.01 大田区立図書館見学、友の会と交流
- 11.15 会報13号発行
- 11.24 図書館と新役員との懇談
- 11.28 田端文士村文学散歩

（2005年）

- 01.19 声に出して本を読む会発足
- 01.29 会員交流会
- 02.10 第6回 障がい者サービス交流会  
04 中央図書館の安藤館長が退職、  
新館長に蛭田廣一氏
- 05.09 会報14号発行
- 05.21, 22 第7回チャリティ古本市  
(売り上げ210,920円、社協へ寄付2万円、図書館への寄付積立11万円)
- 06.04 目黒区立八雲図書館見学、目黒図書館友の会と交流会
- 07.08 安藤新館長と役員との懇談会
- 07.17 白梅NPOセミナーの市内市民活動団体紹介ブースに参加
- 07.30 国際子ども図書館見学
- 08.06 会員交流会
- 09 要望書「子どもの読書活動推進計画」への要望を、小平市子ども文庫連絡協議会と共同で小平市教育委員会へ提出
- 09 古本市積立より図書館へビデオ・DVDデッキ、PCプロジェクター一式(202,625円相当)を寄贈。

・ 役員会：月1回、図書館について学ぶ会（月1回）、障がい者サービス交流会（年1回）、声に出して本を読む会（月1回）

- ・ 交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」42号～51号発行

## 第8年度（2005.10～2006.9）

〈2005年〉

- 10.02 第8回定期総会（会員数132名）
- 10.21 小林市長と面談
- 11.05 ビデオ上映会「杉原千畝 命のビザ」 本間浩氏による難民問題についての解説

〈2006年〉

- 01.21 会員交流会
- 01.25 浦安図書館友の会との交流会（中央図書館 小平4人、浦安7人）
- 02.08 会員と図書館職員との懇談会（図書館より5人、友の会より10人）
- 03.15 第7回 障がい者サービス交流会（9団体 約35名）
- 05.08 花小金井図書館改築オープン 記念式典参加
- 05.20,21 第8回チャリティ古本市開（売り上げ255,640円、純益187,090円、図書館への寄附積立16万円）
- 06.11 講演会「五重塔」（講師：浜島正二氏 国立歴史民俗博物館教授）
- 06.26 図書館への要望書提出（図書館の運営・サービス、図書館協議会、学校図書館、仲町図書館建て替えについて）
- 07.07 **YAを楽しむ会**発足
- 07.08 NPOセミナーin白梅に展示参加
- 07.29 会員交流会
- 09.03 声に出して本を読む会発表会（喜平地域センター 43人）
  - ・役員会：月1回、図書館について学ぶ会（約月1回）、障がい者サービス交流会（年1回）、声に出して本を読む会、YAを楽しむ会（月1回）
  - ・交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」52号～62号発行

## 第9年度（2006.10～2007.9）

（2006年）

- 10.01 第9回定期総会（会員133人）本間浩会長、島正夫氏、渡部詔子氏、雑崎亮平氏退任、木幡與四郎会長、重村ヒロミ氏、藤原紀子氏、鶴飼恵氏就任（雑崎亮平氏は学習会代表としてその後も役員会に出席）
- 10.22 「NPOフェスタ in 元気村おがわ東」参加（ミニ古本市）純益2000円
- 11.19 講演会「若山牧水と旅」（講師：渡部芳紀氏 中央大学教授・62人）
- 11.20 会報17号発行（1000部）
- 12 喜平図書館、上宿図書館集会室 ネット予約可能に。

（2007年）

- 01.19 NPO法人小平市民活動ネットワーク新年会に参加
- 01.21 会員交流会
- 02.14 図書館職員と友の会会員の懇談会（友の会7人、図書館5人）
- 01 図書館協議会委員公募に友の会会員から3人応募し、委員就任。
- 02 「図書館だより」再発行はじまる
- 03 図書館について学ぶ会が「図書館の広報についてまとめ」を発表。次期テーマ：図書館ボランティア
- 03.08 第8回 障がい者サービス交流会
- 03.18 声に出して本を読む会 第2回発表会「短編の魅力を楽しむⅡー平面から立体への模索ー」（中央公民館ホール）
- 04.08 文学散歩 大森文士村
- 05 木幡與四郎会長退任、

内田副会長 会長代行となる。

- 05.07 会報 18 号発行 (1200 部)
- 05.19.20 第 9 回チャリティ古本市  
(売り上げ 282,140 円、純益 195,166 円、図書館への寄付積立 180,00 円)
- 06.30 講演会「宮沢賢治と岩手の自然」(講師：渡部芳紀氏 中央大学教授、110 人)
- 08.04 会員交流会
- 09.08 声に出して本を読む会 秋季発表会 (40 人 天神地域センター)
- 09.24 設立当初からの会員笠井銀一氏逝去  
・役員会：月 1 回、図書館について学ぶ会、声に出して本を読む会、YAを楽しむ会 (約月 1 回)  
・交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」63 号～73 号発行

### 第 10 年度(2007.10～2008.9)

〈2007 年〉

- 10.14 第 10 回総会 (会員数 138 名) 会長代行に内田清子氏、副会長に藤原紀子氏、監査に阿部順子氏就任
- 10.21 施設利用者懇談会 (館外奉仕室を利用する 5 団体)
- 10.28 NPO フェスタ in 元気村おがわ東 2007 参加 ミニ古本市
- 11.15 会報 19 号発行(1000 部)
- 11.16 市川市立図書館見学 (図書館について学ぶ会主催)
- 12 古本市収益金より小平市立図書館へデジタルカメラ 2 台、IC レコーダー 1 台、参考資料『改訂新版・世界大百科事典』 計 366,500 円相当を寄贈

〈2008 年〉

- 01.20 会員交流会
- 02.13 第 1 回図書館利用者懇談会  
「図書館の未来を語り合おう」(友の会 14 人、一般 7 人、図書館 5 人)
- 03.02 声に出して本を読む会発表会「ことばの玉手箱ー詩と本 wo 読む会」(会場：ルネこだいら・市民自主公演支援事業) 観客 91 人、出演者・スタッフ 20 人、3 名入会
- 03.13 第 9 回 障がい者サービス交流会 (図書館と共催)
- 04 中央図書館の蛭田廣一氏が退職、新館長に柄澤俊彦氏
- 04 花小金井図書館にビジネス支援コーナー設置、平成 20 年度子どもの読書推進活動有料実践図書館文部大臣表彰受賞
- 04.12 文学散歩 三鷹界限 (三鷹禅林寺、太宰治サロン、山本有三記念館など)
- 05.15 会報 20 号発行 (1200 部)
- 05.24,25 第 10 回チャリティ古本市  
(売り上げ：323,910 円、純益：225,454 円、図書館への寄附積立：230,000 円 )
- 08.02 会員交流会
- 09.06 講演会「江戸川柳を読むー滑稽と風刺の庶民の文芸ー」講師：吉澤 靖氏  
・役員会：月 1 回、学習会：月 1 回  
・交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」74 号～83 号発行